

ミャンマー 深く知ろう

「お役立ち情報」サイト開設

総選挙でアウン・サン・スー・チー氏が率いる野党、国民民主連盟が過半数を獲得したミャンマーの医療事情を研究している関西福祉大(赤穂市)社会学部社会学部の勝田吉彰教授(54)が、ミャンマーの情報サイトを開設している。論文や学会で発信している学術情報以外に、ミャンマー人が喜ぶお土産、接待のヒントなど「お役立ち情報」が満載。日本ではまだまだ知られていないミャンマーの素顔に触れられる。

(藤森恵一郎)

■ 関西福祉大・勝田教授

ミャンマーは2011年3月、50年近く続いた軍政から民政に移管。経済開放が進み、新たな市場として、日本企業は熱い視線を送る。外務省の統計では14年10月1日現在、在留邦人は1330人にとどまるが、勝田教授は「経済発展が先行するインドネシア(在留している。)

喜ばれる土産、蚊対策など伝授



ミャンマーのさまざまな「お役立ち情報」をサイトで発信する勝田吉彰教授(赤穂市新田)

サイトでは、話題を医療と福祉、鉄道、観光、グルメなど約40の分野に分けて掲載。仏教の信仰にあついミャンマー人には箱入り線香がお土産に喜ばれることや、蚊対策として

欠かせない虫よけスプレーは日本製より現地で売られている商品の方が効果の高いことなど、実用的な細かな情報も多く紹介している。

サイトのアクセス(接続)解析をしたところ、大手の社から閲覧された記録もあるといい「日本にはまだミャンマーの情報が十分ないので、ビジネスの参考にしてもらっているのでは」と勝田教授。「役立つ情報、軟らかい話など1日1話題ほどのペースでぎつくばらんに公開していきたい」と話す。サイトは「ミャンマーよもやま情報局」で検索できる。

神戸新聞
15.11.14

複写はご遠慮ください。